

たいよう新聞

465号

10月10日発行

今年も建設技術展に参加します！

当社では毎年、全国に展開する各支店が主体となって、各地で開催される建設技術展へ積極的に出展しています。2024年度は、東京・名古屋・大阪・九州の4支店が6か所の技術展に出展します。

建設技術展に出展する意義・目的



常務取締役 営業本部長
おくやま よしひろ
奥山 喜裕さん

当社の工法を広くアピールし 認知度を向上

建設技術展への出展の目的は、**当社の独自開発工法を中心に、各種取り扱い工法を実績も踏まえ広くPRすること**です。それによりそれぞれの地域における当社の認知度の向上を図ります。当社は創業の地である愛知県を中心として東海地方では高いブランドイメージが定着していますが、比較的歴史の浅い支店・営業所では、まだまだ十分に認知されているとは言えません。あらゆる場面を通して**当社の魅力を発信し続けることで、新規のお客様との接触機会を増やし、認知の拡大を図ることが重要**と考えています。また、出展は新規のお客様だけではなく、既存のお客様との交流の場ともなり、新たな展開や商談が生まれる機会ともなります。毎年新しい技術をご紹介できるわけではありませんが、より多くのお客様に立ち寄っていただけるよう、出展方法にも工夫を凝らし、意義ある展示会とすべく、引き続き積極的に取り組んで参りたいと考えております。



技術展に参加しました！

『フクイ建設技術フェア2024』



金沢営業所
Hさん

出展内容 TRD工法とハイグリップグラウト工法の2つを出展

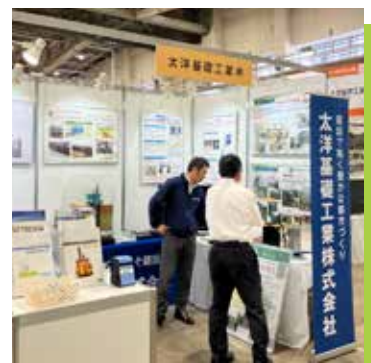
主に2つの液状化対策工法を出展しました。1つ目は、**TRD工法という等厚式の地中連続壁工法**です。地中に連続壁を造成して水の流動を抑えることで、将来的な液状化を防ぎます。最大60mほどの深度まで打設でき、安全面に配慮した工法であることが魅力。2つ目は、**ハイグリップグラウト工法という薬液注入工法**の一種で、建物の基礎部分の水と薬液を置き換える工法です。既存の建物にも施工できることが特徴です。

意識したこと

先日の能登半島地震でも液状化は深刻な災害の1つであったため「当社の工法で貢献できれば」という想いで出展内容を選びました。TRD工法についてはミニチュア模型展示、ハイグリップグラウト工法はパネルでわかりやすく展示しました。

当日の様子

土木技術者の方が多く来られました。構造物が沈下した際の修復工事についても展示したのですが、能登の復興工事で行っている内容ということもあり、そちらも非常に興味を集めていたことが印象的です。能登の復興はまだ道半ば。私達の技術が復興の一助となれば幸いです。



『地盤技術フォーラム2024』



出展内容

浅深4軸工法・ハイグリップグラウト工法・SATコラム工法を出展

各工法の特徴や優位性について紹介しました。また、地盤改良技術に加え地中連続壁工のTRD工法・ミニウォール工法と地中障害物撤去工のBG工法についても展示。設備投資を行った機械の稼働率アップを目指すことが今期の全店目標であることから、BG工法とSATコラム工法については、特に注力しました。

意識したこと

過去の経験と他企業の出展方法を参考に、展示ブースに入りやすい立ち位置を考慮してスタッフの配置を行いました。回を追うごとにスタッフの意識も高まり集客力が上がっています。今後はブースに展示する工法のパネルを大きくするなど、インパクトのある展示を行っていききたいと思います。

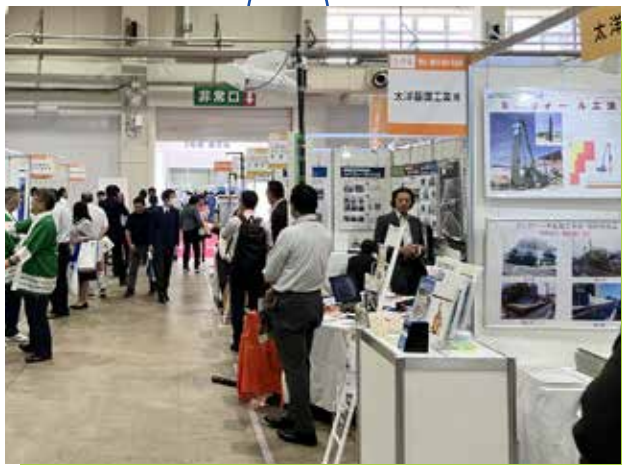
当日の様子

目標の集客数200名を超えて、250名以上の方に展示を見ていただくことができました。特にTRD工法に関しては非常に細かい部分まで質問いただき、まだまだ地中連続壁工法は顧客のニーズがあると感じました。



東京支店 営業部

Nさん



『先進建設・防災・減災技術フェア in 熊本 2024』(九州・11月20日)



九州支店 営業部

Iさん

参加への意気込み

熊本は、このところ4年ごとに豪雨災害や地震に見舞われており、様々な防災技術が求められています。今年も昨年に続き「エヌエスピーシーW工法」の出展で、工法内容や特徴をシンプルにアピールします。

今後実施予定の技術展はこちら！

『建設技術展2024近畿』(大阪・11月7日)



大阪支店 工事部

Nさん

参加への意気込み

今回は「ミニウォール工法」を展示予定です。現在、準備としてパンフレットの制作をしております。技術展を通して多くの企業が展示している技術や工法を勉強し、自分の知識として取り入れるだけでなく、意見の交換をし、理解を深めたいと思っております！

『建設技術フェア2024in中部』(名古屋・11月28日)



名古屋支店 営業部

Nさん

参加への意気込み

今後も期待される都市再開発事業に欠かせない地中障害物撤去のBG工法とスーパートップ工法を展示します。自社保有機械工法の展示であり、機械保有の優位性をアピールして新規の受注に繋がりたいと考えております。

最前線レポート

内径700mm配水管布設工事

太洋基礎工業が携わった工事を紹介します。今回は河川の下に水道管を敷設する工事。しかし当初はさまざまな障害がある上に乗り込み時期が遅れてしまったのだとか。そんな中、どのように工期内に完工させることができたのでしょうか？

現場概要

施工期間	2024年4月12日～2024年7月11日
場所	三重県松坂市古井町
発注者	三重県企業庁中勢水道事務所様
元請	株式会社北村組様
一次下請会社	太洋基礎工業株式会社
施工体制	太洋基礎工業株式会社1名、他2～5名
施工目的	水道管の敷設に伴う泥濃式推進工事



名古屋支店 工事部

Hさん



現場の特徴

水道管を敷設する工事でした。路線上に河川が横断している現場だったため、そのままの状態では敷設することができません。そのため、河川の下を推進工事で通し、新しく水道管を敷設しました。

苦労した点と乗り越え方

土質変化への対応

今回の現場は、推進を通す管路が粘性土から礫質土に変化する地盤。地層が変わる部分を施工すると、掘進機は柔らかい地盤に変位するため慎重な施工が必要でした。また推進管路の土質は発進立坑から約33m進んだ箇所ではN値の高い砂礫層が起状していました。上部のN値が低い粘性土層では、掘進機の地盤反力が確保できず、下部の砂礫層に乗り上げて精度不良を招く可能性がありました。また、土質の変化や推進速度によって切羽のバランスが崩れ、急激な推進力の上昇が起こり推進管の破損や土砂の取り込み超過が発生する可能性も。急激な土質変化に対応するため、推進管1本毎の切羽圧力、推力、土質状況などの管理を行いました。その結果、地層の変化を発見し、地盤に応じた推進工事の施工を円滑に進めることができました。



施工完了に向けて

密な打ち合わせで工期短縮を目指す

発進立坑に近接していた高圧線の移設が半年以上かかり、乗り込み時期が大幅に遅れてしまいました。しかし元請様より出水期までには完了してほしいとの要望が。そのため、各工種を無事完工させるのは当然ながら、次の工事を担う業者に延滞なく引き渡せるように意識しました。今回の工事は大きく分けて4工種。工種ごとに携わる業者が異なるため、工種と工種の間を空けると、日数が無駄になり工期に間に合わなくなる可能性がありました。各業者の方と密に打ち合わせを行ったことで、スムーズに進められ工期短縮をすることができました。



難しかったポイント

今回の工事の懸念点は、粘性土と砂礫層が互層になっていたため、どこで変わるのか予測がしにくかったところ。土質柱状図で確認したため、ある程度どのような地層であるのかは理解できていたものの、どこで変わるのかは工事を進めなければわかりませんでした。比較的早い段階で砂礫層が出てきましたが、懸念点はクリアすることができ、無事に施工することができました。

KEEP OUT

KEEP OUT

KEEP OUT

声援

工事部の仲間が私の最大のモチベーション

私は部下を「部下」として見たことがありません。もちろん組織上の上下関係はありますが、一緒に働くメンバーは「仲間」だと思って接しています。仕事は一人でやるものではないですし、今の自分がいるのは仲間があってこそ。工事部のメンバーにいつも伝えていることがあります。「頼れる仲間と信頼できる上司を作りなさい」と。仲間は同僚でも、お客様でも、協力会社の方でも誰でも構いません。この人がいるから、この人のために頑張りたいと思うことは、仕事へのモチベーションに繋がると考えています。そして工事部の最大の魅力は、メンバーの仲が良いところ。笑顔が絶えない部署ですし、困ったことがあれば支え合いながら問題を解決していきます。その結束力の強さが、仕事へ良い影響を与えていると感じています。これからも仲間への感謝の気持ちを忘れずに、質の高い仕事ができるように精進していく所存です。

座右の銘は「家、家にあらず。継ぐをもて家とす」

先代から支えてきた当社特有の技術。長きに亘りそれを継承してきたことで、今の当社があるのです。技術の継承100年。後輩や若手にその思いを引き継いでもらうためにも、私たちが先頭に立ち、未来の扉を開いていかなければなりません。仲間の話にも通ずるところがありますが、信頼できる仲間が増えると、必然的に技術が継承されていきます。「あの人がこうしているから、自分もやってみよう」「困っているから手助けしよう」という行動が、後の技術力習得に繋がっていくのです。押し付けではない自発的な行動こそが、信頼関係の構築と技術の継承に大きく関わっていくのではないかと考えています。



名古屋支店 Iさん

👑 月間MVP賞 👑



受賞者

名古屋支店
環境開発部

Kさん

推薦理由

株式会社竹中土木様より、作業所安全衛生職長賞をいただきました。現場はTRD工法にてコンクリートパネルを建て込み、土留め壁を設置する工事でした。施工中、トラブルはありましたが、無事故無災害で完了することができました。これは桑原さんの安全意識が高く、日々の現場管理によるものだと思います。

(推薦者 名古屋支店 Sさん)

